



ネットのトリセツ

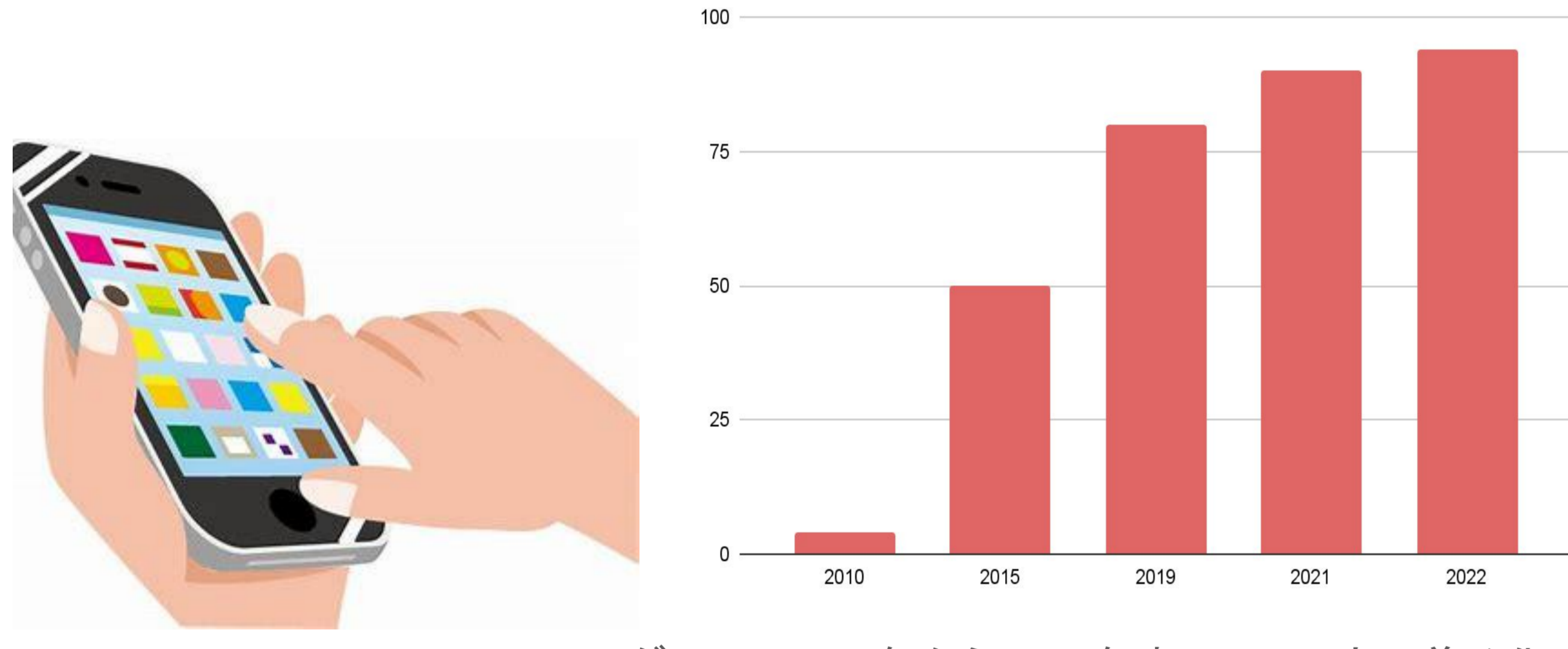
～ 覚えていますか？あなたが残した言葉のタトゥー～

班員 山口 天慈 緒方 梨々花 黒田 百華 煙山 芽依

指導者 五反田先生 水永様

○研究の動機

今、私たちはスマートフォン1つでSNSを閲覧したり投稿できる時代になっている。以前は趣味で始める一般人が利用者の大多数を占めていたと思われるが、現在ではSNSが社会に浸透したことで、企業や有名人までもが実名で参入していることも珍しくない。それらと伴って誹謗中傷というワードが社会的に問題視されるようになった。誹謗中傷は年々増加している。そこで私たちは、誹謗中傷の拡大を食い止めるためには何か対策が必要だと思いこの研究を始めた。



グラフ1 2010年から2022年までのスマホの普及化

○研究方法

- ・今の日本のスマートフォンの普及率とSNSアプリに内在するあらゆる機能を調べる。
- ・参考文献を集める。(論文、記事など)
- ・ネット上の誹謗中傷に関するアンケートを無作為に選んだ人に行う。
- ・メモカルクタラワを使用し実際の心情を把握し、誹謗中傷が人に与える影響を調べる。
- ・結果をまとめ、考察を行う。

○仮説

誹謗中傷が増加している理由は匿名性と近年のSNSの普及に関係していると考えます。また、現状、誹謗中傷ができなくなる仕組みなどが具体的にないことから、SNSアプリなどに誹謗中傷を抑える仕組みが必要だと考えた。

○先行研究

誹謗中傷で炎上した事件では、あまりに誹謗中傷を行っていた人が多すぎたため、実際の書類送検は特に酷いと判断された十数名に絞られた。

「総務省 情報通信政策レビュー 第11号より」

→誹謗中傷を受けた人は泣き寝入りするしかなかったことがわかる。実際に逮捕、または法律で裁くのは難しいとされていた。

○必要な道具

- ・パソコン
- ・メモカルクタラワ

○実験と結果

まず誹謗中傷の理解度と心身に与える影響を調べた。

①無作為に抽出した生徒にいくつかの質問を投げかけ得られた結果で表した ↓

1. 誹謗中傷は増えてきていると思いますか？

はい・・・93.8% いいえ・・・6.2%

2. 誹謗中傷が増えている理由はなんだと思いますか？

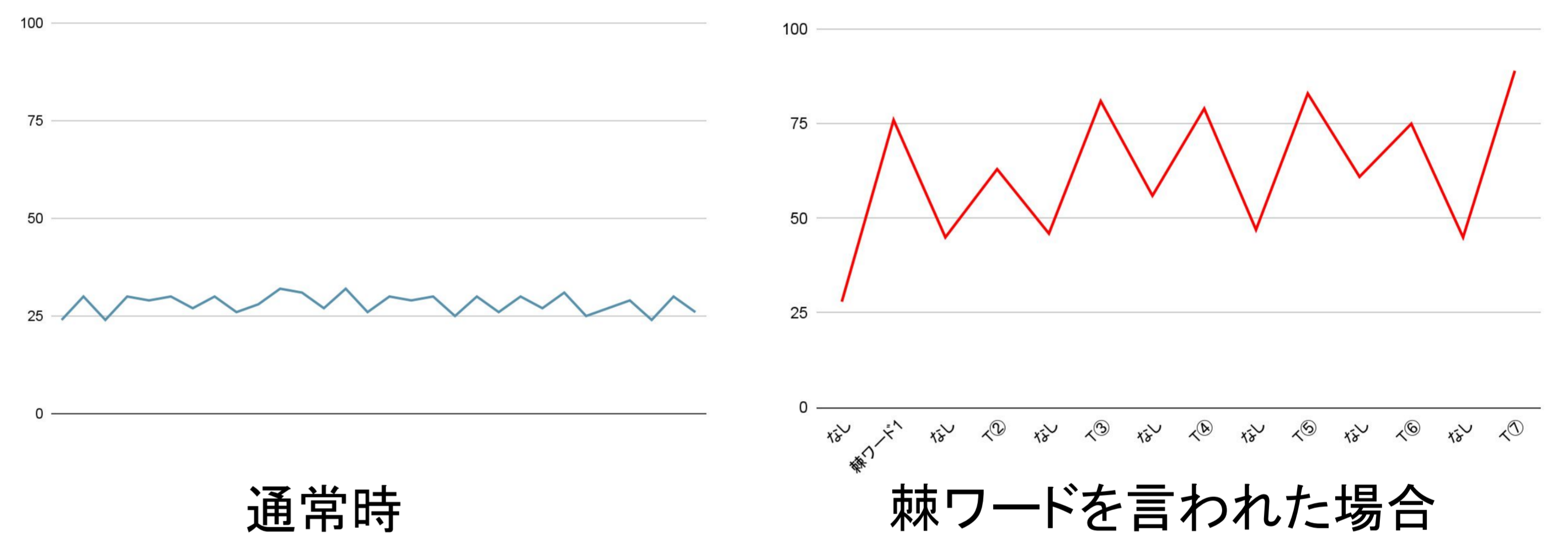
- ・SNSの普及
- ・子供のスマホを持つ時期が早い
- ・匿名性

3. SNSで見た誹謗中傷に共感したことはありますか？

はい・・・100% いいえ・・・0%

②自分たちで'棘ワード'を設定し、それらを投げかけたときの交感神経の変化を調べた。誹謗中傷を読んだときの人間の感覚に近づけることで提案手法の精度向上を目指した。

棘ワード → 「馬鹿, きもい, 嫌い, 嫌われる, 死ね, 無理, 不快, 怖い, 臭い, クソ」



通常時と比べ、棘ワードを言われた場合、交感神経の数値が高くなっていることが分かった。

③ SNSアプリに潜在する、あらゆる機能を探し、今までの炎上事件をもとに特徴を探した。↓

「BAD ボタン」がないアプリ(ツイッター, インスタグラムなど)が多いので、「いいね」が押されているからといって良い内容の投稿であるとは断言できないということが分かった。

○考察と今後の展望

今のSNSにおいては誹謗中傷対策として、ユーザーの通報により誹謗中傷している文章の削除であったり、投稿しているアカウントの凍結などの対策が人間の手によって行われているが、人間の手作業による限界が既に受け取り手に見られている可能性がありこれらの対策では不十分であると考えた。この問題を解決するためには罵詈雑言や誹謗中傷を自動的に判別し、未然に投稿を防いだり、受け取る側の設定で未然に非表示にしたりする機能が必要であると考えた。また、「BADボタン」の導入などについても考えていきたい。

○参考文献

総務省 令和3年度 日本人のインターネット利用者数
学術論文 総務省 情報11号 ネット炎上の実態